まちを想う、仲間とつなぐ

ゆめこらぼ通信

第68号
2020年12月 発行

発行:西東京市市民協働推進センター ゆめこらぼ 〒188-0012 東京都西東京市南町5-6-18 イングビル1F

参加団体
49団体

ゆめこらぼ&実行委員会
PRESENTS
～新型コロナに負けるな！
市民活動～

第12回NPO市民フェスティバル

1月23日(土)、24日(日)10:30～16:00

来て見て！パネル展示

昨年の様子

会場:フレスポひばりが丘 2Fイベントスペース
(東京都西東京市谷戸町2-3-7)

西武バス 境03系統「谷戸」バス停下車徒歩1分

オンライン視聴も可能

市民活動団体の皆さんが撮影した動画を見てみよう！

1月23日より
YouTubeで団体の
紹介が見られます。
(3月末まで視聴可能)

さらに、
当日は特別ライブ映像の配信も！

ゆめこらぼホームページをチェック！

https://www.yumecollabo.jp/第12回npo市民フェスティバル

「新しい生活様式」の中での市民活動

アースデイネット連絡協議会（略称：アースデイネット）

私たちは、いこいの森公園での「アースデイフェアin西東京2020」がコロナ禍の影響で実施が不透明になり始めた、今年の春頃から準備活動を始めました。

そして、未だ実施が見通せない年1回のイベントだけでなく、日常的な会員相互の交流と市民への双方向的な情報発信をしていこうと、7月にもプレイベントを行い、この10月から＜アースデイネット（アースデイネット連絡協議会）＞として本格的に活動を開始しました。

私たちは、4000人近い団体・個人が集う市民主催のイベントになっていたアースデイの経験と蓄積を引き継ぎ、リアルな活動とインターネット等の多様なメディアも活用し、連携しながら双方向的に情報交換し、知恵を出し合って活動していきます。

紙版とWEB版の情報紙を発行したりスポット（リアル交流の場）を設けたりして日常的に交流し合い、アースデイや国連提唱のSDGsへの理解を深めるワークショップやオンライン学習会等にも挑戦します。

また、若い世代や新しい人たちも参加できるように、＜文化的作品＞の発信やライブも計画しています。

9月27日立ち上げの会

7月のイベントでは、EarthDaySongs（アースデイのテーマソング）のミニライブを行い、ジョンレノンのイマジンやJazzのカバー曲等で「離れていても繋がろう。想いを届けよう。地球の未来を考えよう。」と呼びかけたり、子ども達や若い世代向けの創作紙芝居「つながりのはなし～みんなちきゅうでいきているなかま」や鳥と森のつながり（生態系）を描いた電子紙芝居「オオハシと森」の動画を上映したりしました。

この創作紙芝居はアースデイの中から生まれた企画でしたが、実際の制作に携わったメンバーは「コーディネーターを仲立ちにしながら、作話・作画・朗読の担当者がそれぞれ別に作業・準備を行い、全員が一同に会することなく完成にこぎ着ける」という、コロナの時代に相応しい取り組みの成果を見せてくれました。

「少しでも地域や地球をよくしたいと思う方、力を貸してください！地球環境やSDGs・アースデイ等に関心のある団体や個人の皆さん、参加してください！よろしくお願いします。」

（事務局長：田中敏久氏記）

EarthDay Songs

創作紙芝居

（寄稿）大人の読書会 生涯学習を実践！

大人の読書会は、2019年度に行われた柳沢公民館主催の「地域づくり未来大学」の受講生の中から生まれました。本好きな人が集まって出来た会です。初めは受講生4人が講習の終わった後に最近読んだ本の話をしていましたが、「読む・聞く・話すこと」の楽しさからもっともっと話をしようとステップ・アップしました。

しばらくは少人数で行っていましたが、正式な会として団体登録をし、8月にメンバーを拡大するためにオープンな読書会を柳沢公民館で開催しました。

第1回目の大人の読書会

初テーマ本は「安土城炎上」（山本兼一著）としました。その結果、20名以上が来場され逆に読書会にならなくなるという始末。やはり読書会は少人数で行うこと、多くても10名程度。その後はあまりアナウンスをせず毎月開催しています。現状では毎回10名前後で推移しており気軽な会を目指しています。年会費はなく毎回自由参加としていますが、7割は固定しています。また毎回持ち回りで自分の好きな本を選んでテーマ本としているため、ジャンルに偏りがなく「蜜蜂と遠雷」「藤沢周平作品」「バッシング論」「失敗の本質」「病院のやめどき」「文豪たちの悪口論」など多岐に渡っています。まさに読書会を通して生涯学習を実践しています。

（事務局：大場誠司氏記）

作家（山形琢也氏）も主メンバーに

（寄稿）茨木のり子の家を残したい会

詩人茨木のり子さんは、日々の暮らしを大切にされました。1958年32歳の時に東伏見の地に従姉妹と設計して家を建て、1975年に夫君三浦安信氏と死別後も79歳で亡くなるまで50年近く住み続けられました。

没後10年の2016年暮れ、彼女の詩や生きる姿勢に魅かれる市民5人で当会を設立。17年は休眠、18年夏に市内平和集会での詩の朗読でデビュー。年末ゆめこらぼからの案内で或る団体主催の茨木のり子追悼朗読会を知り19年2月に参加。これを契機に活動を本格化。会報「茨木のり子手帖」を7月に創刊、季刊で第5号まで発行。19年9月に茨木邸外観の見学・ゆかりの場所で詩の朗読・交流。12月の冬の集いでDVD「つなぐ人」鑑賞・「ハングルへの旅」のお話・交流。20年8月の夏の集いは絵本「貝の子プチキュー」読み聞かせ・吉岡しげ美音楽詩CD鑑賞・朗読会・交流を2回開催。7月には茨木邸草刈りも行うなど活動を積み重ね、会員は111人になりました。

https://www.facebook.com/groups/678384462792618

甥御さんが相続、保存・管理されている家は、企画展への資料貸出や編集者との打ち合わせ等にご使用とのことですがご厚意により限定的に内部見学も可能です。創作と生活の場であった空間に読者が身を置くことで、彼女と作品への理解が一層深まるでしょう。将来、記念館のような形にできたら素晴らしい。

没後15年の集いを来年8月8日保谷こもれびホール・小ホールで開催予定です。思いを共にする仲間の輪を広げていきたいです！

（メンバー：柳田由紀子氏記）

茨木のり子さん

茨木のり子手帖

会報創刊号

◆◆お知らせ◆◆

ぼらんてぃあ倶楽部とのコラボ、始まります。

まちを想う、仲間とつなぐ
ゆめこらぼ通信
発行:西東京市市民協働推進センター ゆめこらぼ 〒188-0012 東京都西東京市南町5-6-18 イングビル1F

発行年4回(3・6・10・12)月

西東京ボランティア・市民活動センター広報紙『ぼらんてぃあ倶楽部』と、西東京市市民協働推進センターゆめこらぼ広報紙『ゆめこらぼ通信』は、今号以降、相互に協力しながらイベント情報などを掲載していく予定です。皆さまの市民活動のお役に立てるよう努めて参ります。

西東京ボランティア・市民活動センター
ぼらんてぃあ 倶楽部

発行年4回(2・5・9・11)月

新たな登録団体＜9月～10月＞

(説明文は登録時に各団体から頂いた「目的」の項を転載しています)

◆NPO法人生活サポートライフ＆ベーシック

住宅確保要配慮者(高齢者、低額所得および一人親子育て世帯が理由である、民間賃貸住宅への入居が困難な方たち)のための住宅相談、住まい探しのお手伝い。居住支援のネットワーク作り。住環境の整備。

◆ピーチ

子育てしている世帯を対象とし、多くの親子により楽しい毎日と過ごせる場を作っていきたいと思ってます。

◆ふらわーネット

地域のコミュニティ作り

＜2020年10月現在で188団体になりました＞

ゆめこらぼの発行物は「UDフォント」を使用しています。

◆◆報告◆◆

10月17日(土)開催 NPOパワーアップセミナー もっと知ろうよSDGsPart2

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

Zoom、YouTubeを使ったオンライン講座を開催いたしました。オンライン講座はゆめこらぼとしては初めての試みでした。

この講座は3月に開催する予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大によって延期、オンラインでの開催となりました。

講師はこども国連環境会議推進協会事務局長であり、ファシリテーターとしてワークショップを多く開催されている井澤友郭氏。持続可能な開発目標SDGsについて、17の目標が相互に関連しあっていることを、数字を示しながら自分事としてとらえられるようにお話しいただきました。

参加者からは「社会課題の原因を分析するための17の視点」との言葉に納得したとの意見や、自分の思いを変えていくことが変革につながると思った、との感想がありました。“誰一人取り残さない世界の実現”は私たちの行動の変革の先にあることを実感できた講座でした。

西東京市市民協働推進センターゆめこらぼ

〒188-0012
西東京市南町5-6-18イングビル1階
Tel:042-497-6950　Fax:042-497-6951
E-mail:yumecollabo@ktd.biglobe.ne.jp
https://www.yumecollabo.jp/
Facebookも更新中！

開館時間　月～木・土　午前10時～午後7時
金　午前10時～午後9時
休館日　毎週日曜日・祝日・年末年始